

第14回 日本認知言語学会(於京都外国語大学) 2013/09/21
 ワークショップ「場の理論と文法現象」

存在スキーマを基本とした 日本語の自他交替の分析

—場所の焦点化はどのような構文と意味を創り出すか—

小柳昇(Oyanagi noboru)

東京外国語大学

国際日本研究センター特任研究員

univ-oyanagi@nihon5ch.net

1. 本発表の構成と主張点

■ 発表構成 (レジュメの節番号、※スライドで補足)

- 従来のアプローチではうまく説明できない自他交替を紹介(2節)
- それに対する先行研究の分析を紹介し、その問題点を指摘(※)
- 本研究が考える存在スキーマに基づいた事態認知モデル(3節)
- このモデルに基づいて冒頭の自他交替現象を説明(4節)

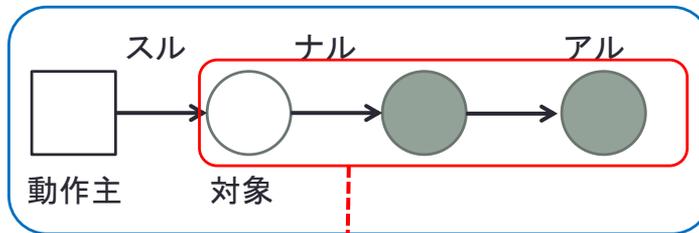
■ 主張点

- モノ同士の因果連鎖: 主客分離を前提とした事態認知モデル
 +
 ➤ **モノと場所の関係** : 主客一体の「存在スキーマ」と
 「所有スキーマ」を組み込んだ
 事態認知モデル

2. 従来の自他交替現象の見方

■暗黙の了解

- ・行為連鎖／因果連鎖の事態認知モデル

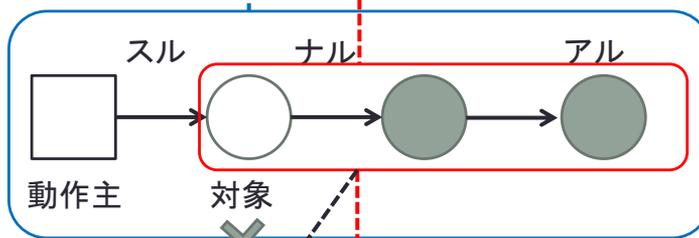


- (1) a. グラスが割れた。
b. 太郎がグラスを割った。

行為連鎖モデルの限界

比較

- (1) b. 太郎がグラスを割った。
a. グラスが割れた。

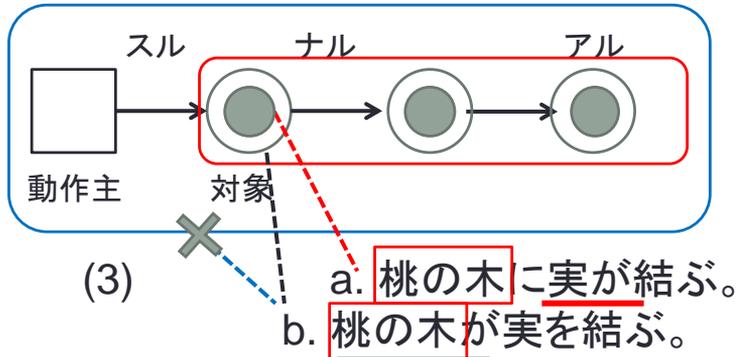


- (3) a. 桃の木に実が結ぶ。
b. 桃の木が実を結ぶ。

認知言語学の観点からの解決案と課題

解決案: 全体と部分のトラジェクターの交替

cf. 中村芳久(2000)「認知文法から見た語彙と構文—自他交替と受動態の文法化—」



Setting Subject Construction /Langacker(1990)

(i) 斜格名詞句が主語になる場合

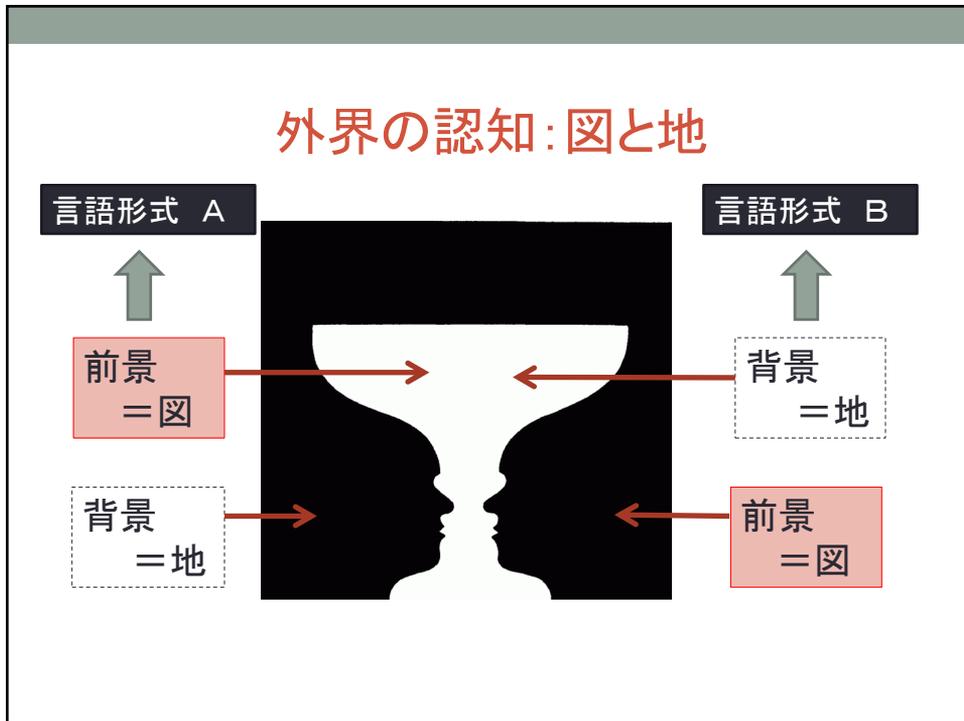
- a. Tuesday saw yet another startling development.
- b. This arena has witnessed many thrilling contests.

(ii) 自動詞文「対象が主語」(a) / 自動詞文「場所が主語」(b)

- a. Fleas are crawling all over my cat.
- b. My cat is crawling with fleas.
→分析: 'be the **setting** for crawling activity'

(iii) 自動詞文「対象が主語」(a) / 他動詞文「場所が主語」(b)

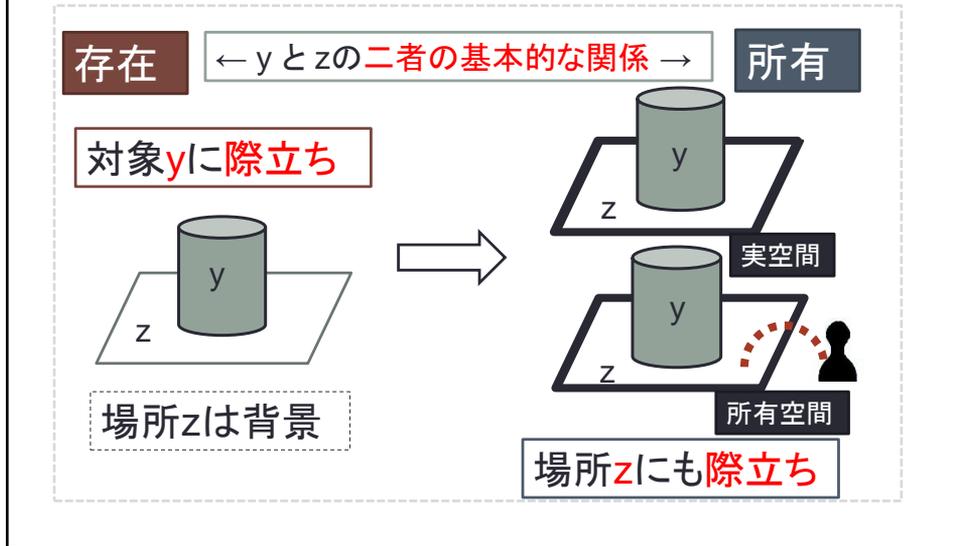
- a. Brygida Rudzka stars in Fellini's new film.
- b. Fellini's new film stars Brygida Rudzka.



3. 存在と所有のつながり

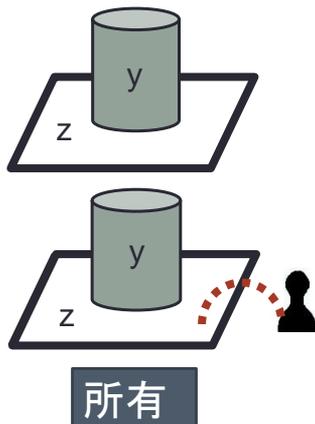
- ① **BE**で所有表す言語と**HAVE**で表す言語（池上1981）
 - ② 世界の言語を見ると、**HAVE**言語は少数派
（バンヴェニスト1983[1966]）（Lyons1968）
 - ③ 非対称性：
HAVE-possessiveをもつ言語には**BE**-possessiveがあるがその反対はない（Clark1978）
 - ④ 歴史的発展（山口2003）
HAVEをもたない言語 ⇒ **HAVE**をもつ言語
（活格型言語・能格型言語） （対格型言語）
- ★基本：BE存在 → 拡張：BE所有

3.1 本研究が考える〈BE存在〉と〈BE所有〉



場所の焦点化(=際立ちを与える)の意義

対象[y]の存在が場所[z]を特徴付けるものとして把握



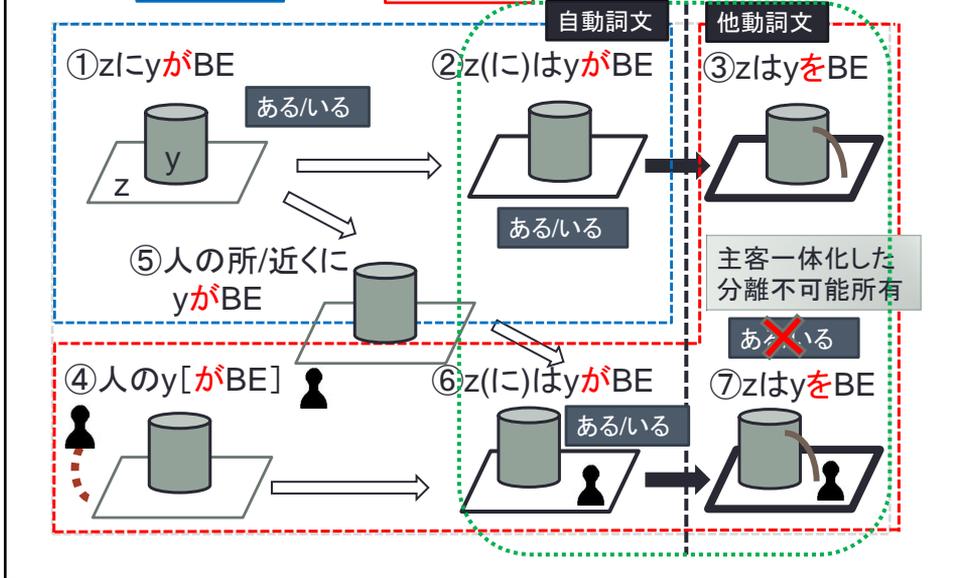
(ア)分離不可能所有

1. 全体⇔部分
2. 主体⇔側面・状態
3. 血縁関係:親⇔子

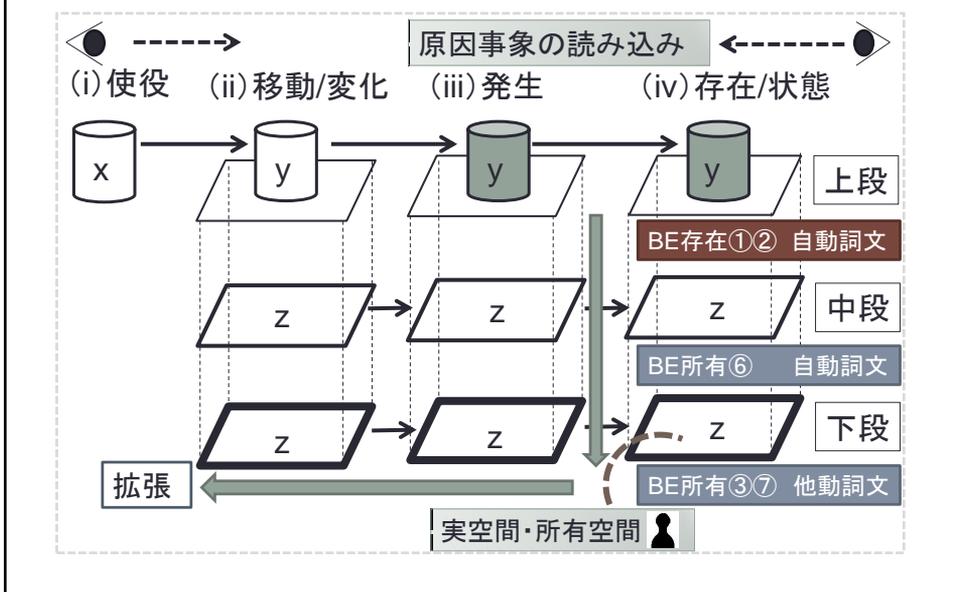
(イ)分離可能所有

4. 所有主体⇔所有対象

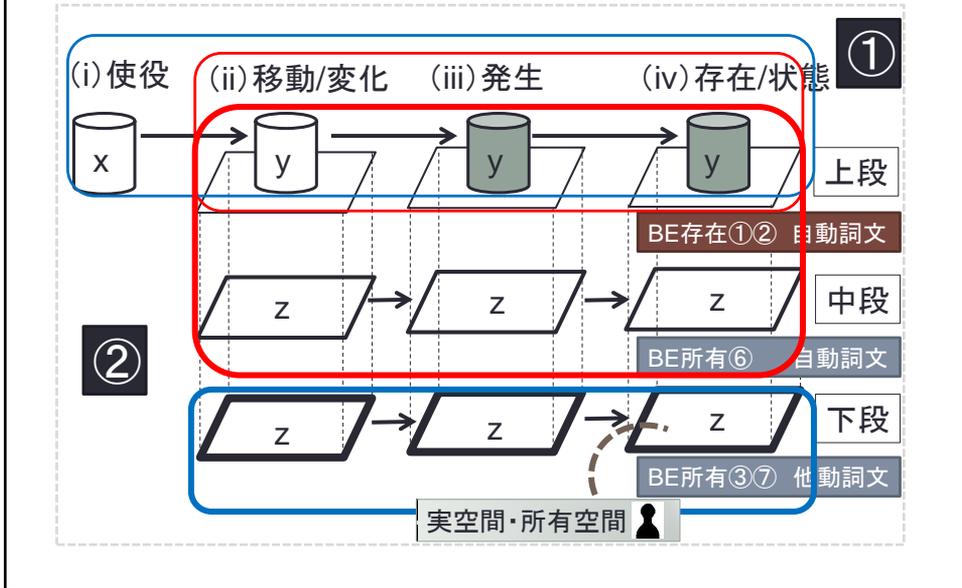
3.2 BE存在 からBE所有への拡張 (図2)



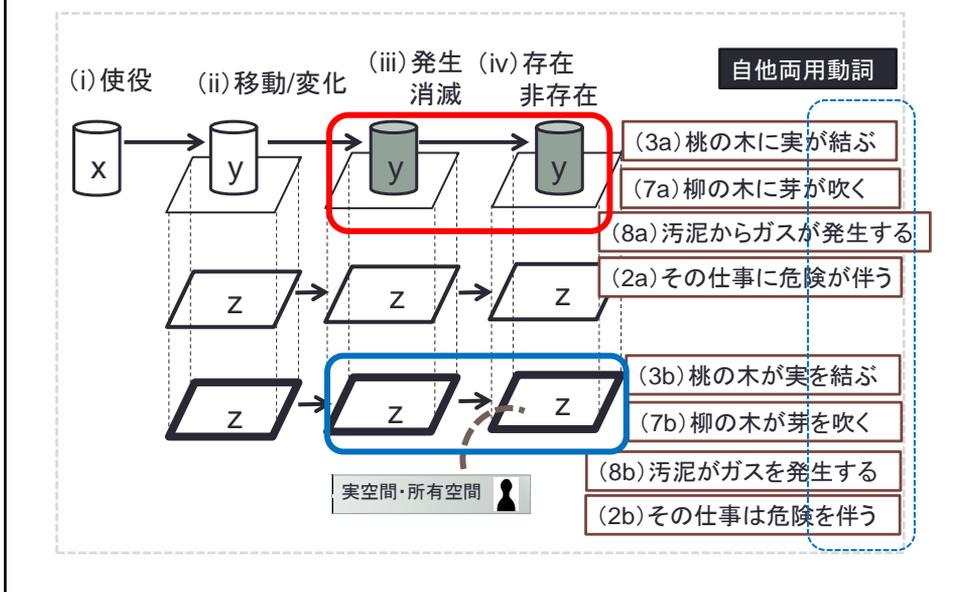
3.3 拡張したBE所有を組み込んだモデル(図3)



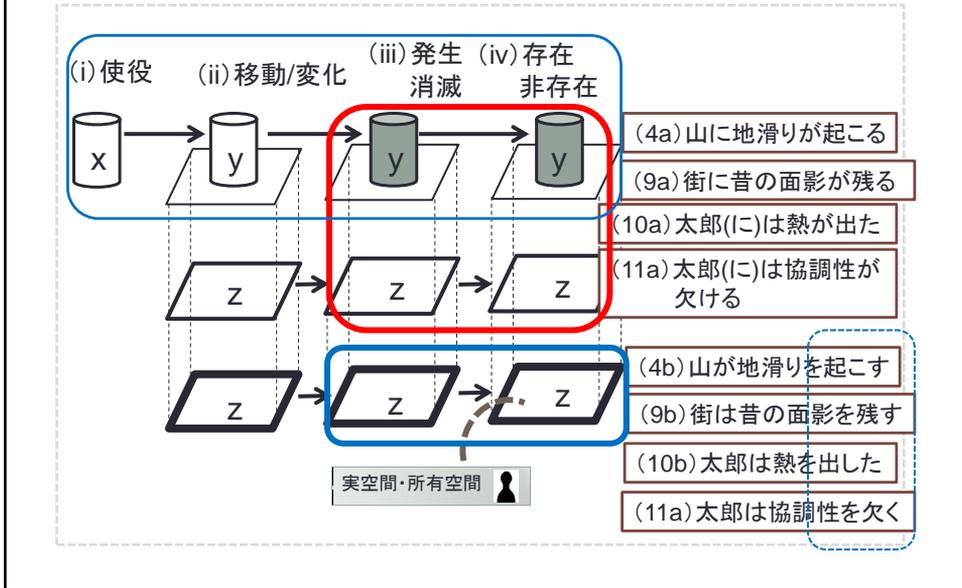
4. 自他交替を引き起こす2つの事態認知



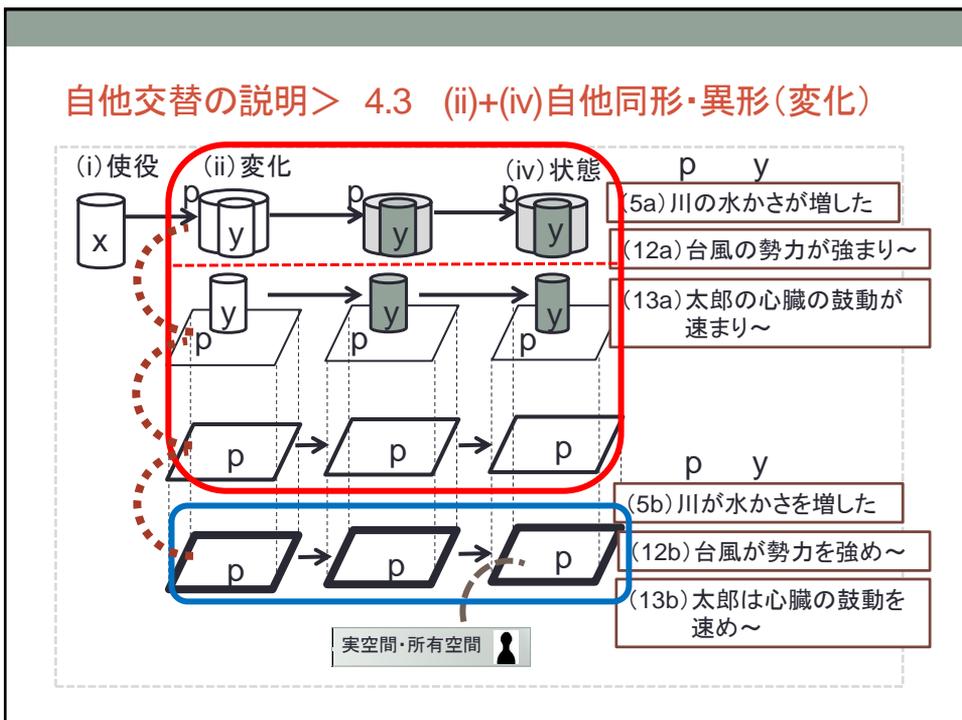
自他交替の説明 > 4.1 (iii)+(iv) 自他同形



自他交替の説明 > 4.2 (iii)+(iv) 自他異形



自他交替の説明 > 4.3 (ii)+(iv) 自他同形・异形(変化)



自他交替の説明 > 4.4 有対自動詞の両用動詞化

a. 他動詞文 : 形態 = 他動詞

- ◆ 太郎が口を あける。
- ◆ 太郎が地面に手をつける。
- ◆ 太郎が席を かえる。
- ◆ 太郎が仕事を 終える。
- ◆ 太郎が計算を 間違える。

b. 自動詞文 : 形態 = 自動詞

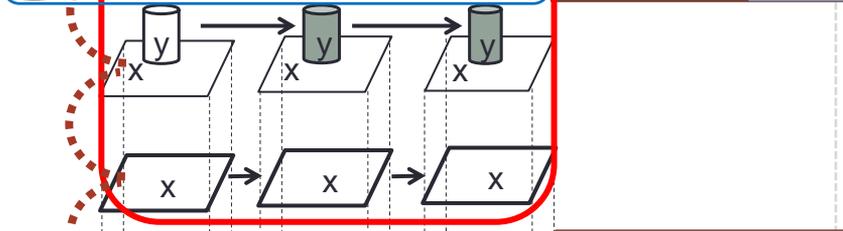
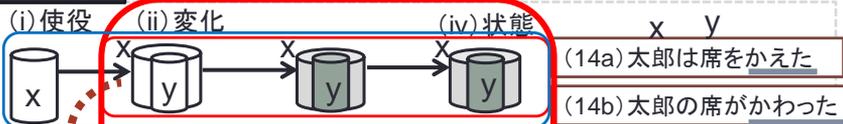
- ◆ 太郎の口が あく。
- ◆ 太郎の手が地面 につく。
- ◆ 太郎の席が かわる。
- ◆ 太郎の仕事が 終わる。
- ◆ 太郎の計算が 間違う。

c. 他動詞文 : 形態 = 自動詞

- ◆ 太郎が口を あく。 / あいて寝ていた。
- ◆ 太郎が手を 地面につく。
- ◆ 太郎が席を かわる。
- ◆ 太郎が仕事を 終わる。
- ◆ 太郎が計算を 間違う。

4.4 有対自動詞の両用動詞化

主客分離



主客一体



主張点のまとめ

モノ同士の行為・因果連鎖
主客分離を前提とした事態認知モデル

これだけでは自他交替現象を十分に説明できない



モノと場所の関係
主客一体の
「存在スキーマ」と「所有スキーマ」を
組み込んだ事態認知モデル

ご清聴ありがとうございました。

➤ スライドで引用した文献(レジユメ参考文献リストにないもの)

Clark, Eve V. (1978) "Locational: Existential, locative, and Possessive Constructions," in Miriam Butt & Wilhelm Geuder. *Universals of Human Language. 4: Syntax*, 85-126. Stanford University Press.

Lyons, J (1968) *Introduction To Theoretical Linguistics*. Cambridge University Press.

中村芳久(2000)「認知文法から見た語彙と構文—自他交替と受動態の文法化—」『金沢大学文学部論集言語・文学篇』20:75-103

山口巖(2003)「「もつ」の言語・「ある」の言語」『言語』32(11), 30-37.

BE所有 ④⑤の例(日本語以外)

■ヒンディー語:

(1) raam=kaa ek beta hai.

ラーム+属格後置詞+1+息子+BE

(2) rames=ke pass do kaare hai.

ラメーシュ+属格後置詞+そば+2+車 + BE

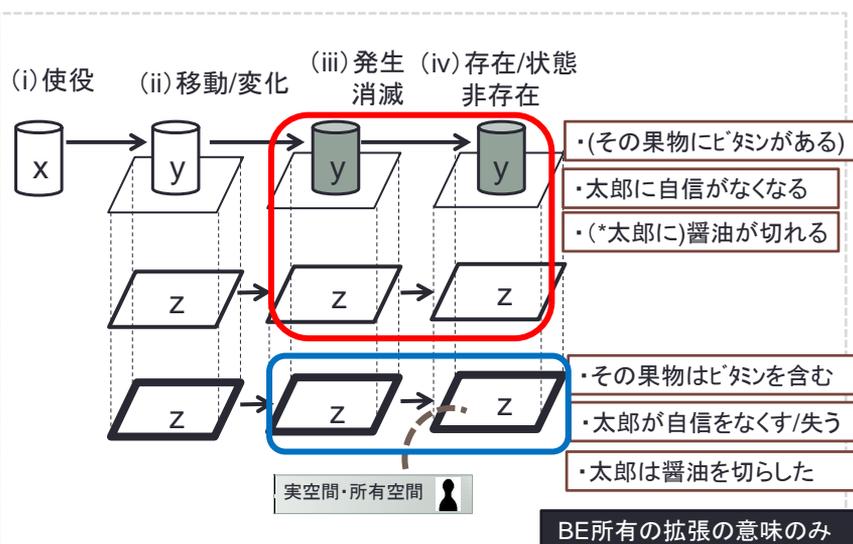
■ロシア語:

(3) У меня (есть) машина.

AT+私[生格]+BE+car

※生格の中に、所有格の意味関係もある

自他交替の説明 > 4.2 (iii)+(iv)自他異形②



自他交替の説明 > 4.2 (ii)+(iv) 自他異形(移動)

